

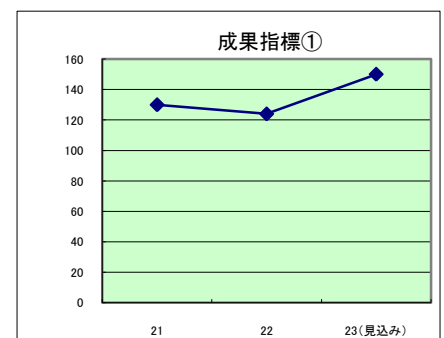
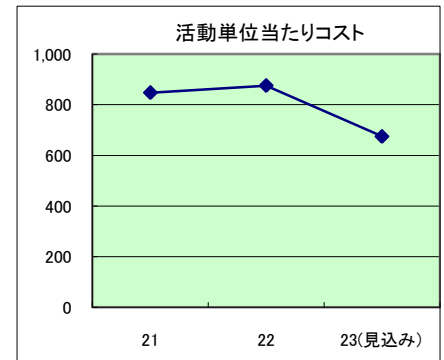
平成 23 年度 事務事業評価シート(平成 22 年度実施事業)

整理番号

保福総08

事務事業名		更生保護女性会助成事業		予 算 科 目	会計	1	一 般 会 計	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	2	健康で生き生きと暮らせるやさしいまち		款	3	民生費	
	施策(節)	2	地域福祉		項	1	社会福祉費	
	施策の方向	(2)	地域における福祉サービスの適切な利用の促進		目	2	社会福祉事業費	
	事業	5	社会福祉対策					
関連する計画等				作成部署	保健福祉部福祉総務課			
事業の目的	対象(誰を・何を)			連絡先	072 - 958 - 1111 内線 1121			
	更生保護女性会							
	意図(どういう状態にしたいのか)							
事業の内容	地域社会の安全に寄与する組織の活性化を図る。							
	女性・母親の立場から地域社会の非行防止のために活動する。保護司と連携し、諸活動を実践している。 1. 青少年の保護育成、ならびに非行化防止 2. 更生保護思想の普及宣伝、ならびに犯罪予防活動の推進助長 3. 更生保護助成活動についての研究、ならびに協議 以上の活動をする団体への助成事業							
根拠法令等		羽曳野市更生保護女性会助成金交付要綱						
事業開始時期		☒ 昭和 40 年開始 ☐ 明確にはわからない ☐ 平成 ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている		終了年度		平成 年度		
事業開始時からの状況変化		平成17年度に助成額を減額実施している。						
市民や議会の要望		団体からは、補助金の継続を求める意見が出ている。						
実施手法		☐ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☒ 補助金・助成金 ☐ その他()						
委託先		☐ 市外郭団体委託 名称() ☐ 民間委託 ☐ その他		委託内容				

区 分		21年度	22年度	23年度	
		(実績)	(実績)	(見込み)	
事業費【1】 (千円)		180	180	180	
人件費【2】 (千円)		450	504	360	
職員数	正規職員	0.06 人	0.07 人	0.05 人	
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間	
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		630	684	540	
財源内訳	国費 (千円)				
	府費 (千円)				
	市債 (千円)				
	その他 (手数料・使用料等) (千円)				
	一般財源 (千円)	630	684	540	
活動指標(事業の活動実績)【B】		単位	21年度	22年度	23年度(見込み)
①	研修会等参加人数	人	743	781	800
②					
③					
活動単位当たりコスト(【A】／【B】①)		848 円	876 円	675 円	
市民1人当たりコスト(【A】／人口)		5 円	6 円	5 円	



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名			単位	指標設定の考え方		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	①	関係諸団体への参加人数 (式)	人	社会活動への貢献度を示すものとして設定した。	目標	140	150	達成率(%)	150			
					実績	130	124	82.7%				
	②	(式)			目標			達成率(%)				
					実績							

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	地域見守りなど、市民に還元される活動をしており、公益性は高い。

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	市民生活に密着したボランティア活動の担い手として活動する会への助成は妥当である。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
		国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
		緊急性が認められる	☐	☒	☐	
	効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	助成額については、数年前に見直しをして、最小限の金額で、効率的な会の運営が行われている。
		受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐	
	有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	女性の立場から更生保護事業に協力し、犯罪のない明るい社会の建設に向けて寄与することを目的としており、明確である。
		上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☒	☐	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☐	☐	☒	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☐	☒	
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☐	☐	☒	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☐	☒	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☐	☐	☒	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	活発な活動が市民生活を豊かにする。地域福祉にも貢献している。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☒	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☐	☒	☐	

担当部局評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	明るい社会の建設のため、犯罪を起こした者の更生保護や健全な青少年の育成保護を地域で取り組む更生保護女性会の果たす役割は大きいものがある。 今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など) 南河内(羽曳野市・藤井寺市)保護司事業に協力し、女性の立場から更生保護・育成保護ボランティアとして地域で活動されているもので、これからもこのような活動を続けていただく必要があるため、助成を続けていく。	
	行本部評価	

☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善
☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了